

12.高知城(高知) 高知市丸ノ内 1-2-1

関ヶ原の戦いの功績により徳川家康から土佐一国を拝領した山内一豊は、慶長6年(1601)大高坂山に新城の築城工事を始め、慶長8年(1603)に本丸と二ノ丸が完成し入城した。享保12年(1727)城下町の大火で追手門以外の城郭のほとんどを焼失しましたが、宝暦3年(1753)までに創建当時の姿のまま再建された。三層六階の天守閣や追手門などの建物は国の重要文化財となっている。別名を「鷹城」と言い、これは土佐漆喰の白壁と瓦葺の灰色が鷹の羽に似ていることが由来。天守は独立式の3層6階建てで本丸御殿と繋がった珍しい構造。(同パンフ)



水落としのある石垣



天守に通じる石垣



野面積みの石垣



天守



追手門



山内豊一銅像



城をバックに板垣退助



瓦、鬼瓦、鯨

